

中山間地域フォーラム緊急研究会

## 農業集落調査の変遷と 重要性

2022年10月28日  
橋口卓也（明治大学農学部）

### 本日の報告内容

1. センサス農業集落調査の変遷
2. 集落数の変化と農業集落定義の変更
3. 近年の変化の重要点

## 1. センサス農業集落 調査の変遷

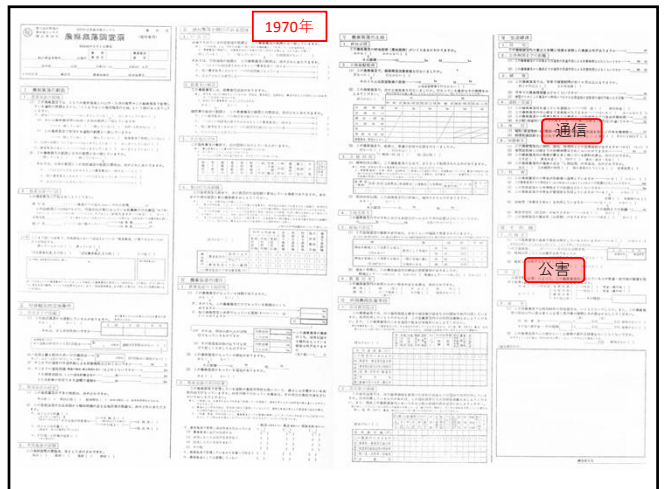
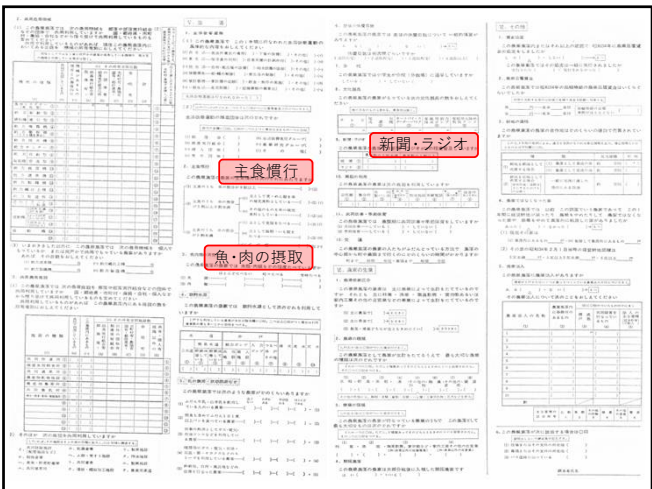
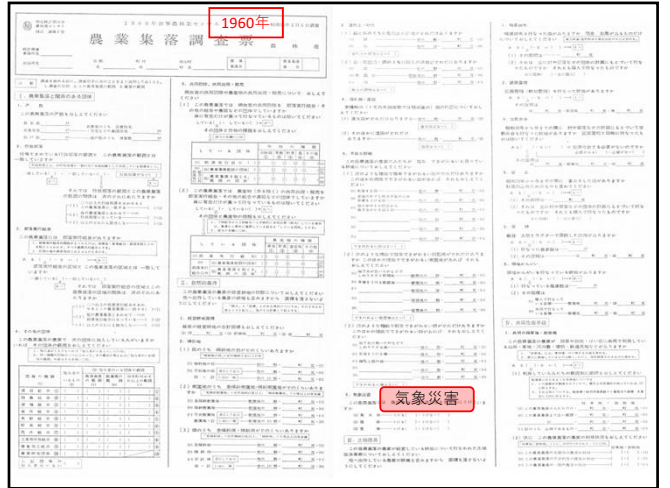
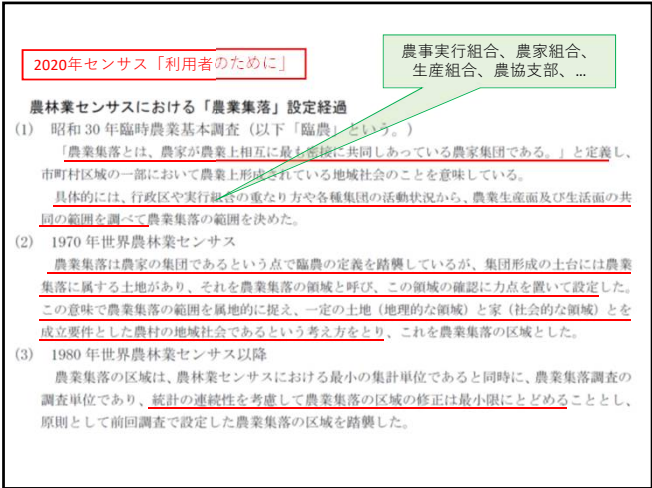
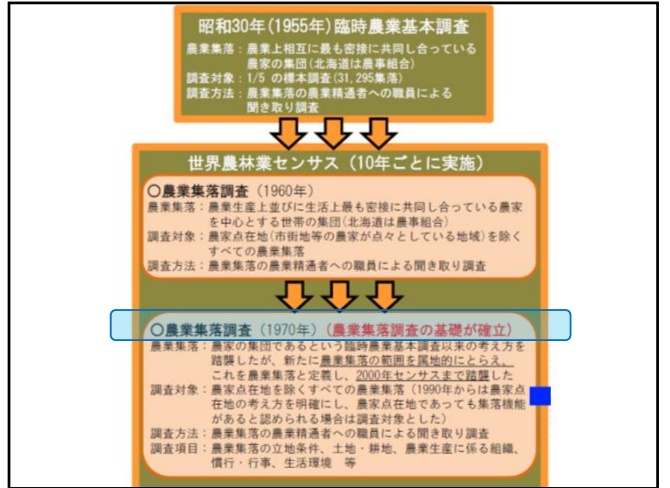
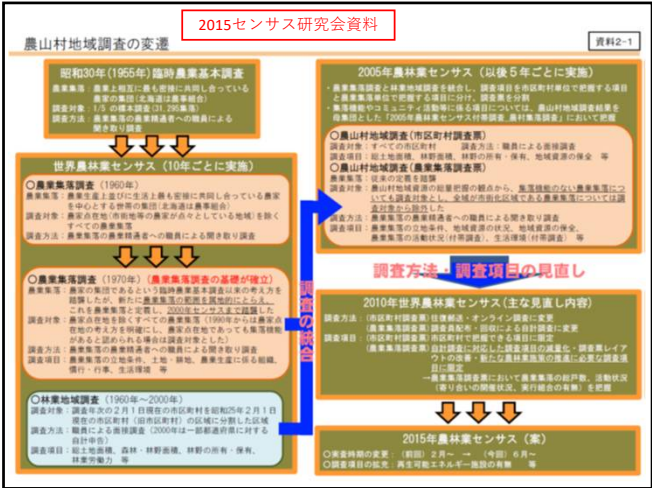
### 農業集落調査の変遷①

- 1955年：昭和30年臨時農業基本調査  
(156,477集落の5分の1抽出)
- 1960年：世界農林業センサス（全数調査）
- 1970年：世界農林業センサス（全数調査）  
(農業集落の概念発展：142,699集落)
- 1980年：同上
- 1990年：同上
- 2000年：同上

### 農業集落調査の変遷②

- 2005年：農林業センサス（全数調査）  
(農業集落定義変更：139,465集落)  
+ 農村集落調査（5分の1抽出）  
→ 集落機能の調査はこちらで
- 2010年：世界農林業センサス（全数調査）
- 2015年：同上
- 2020年：同上
- 2025年：廃止提案

### 農業集落調査の変遷 (統計部資料による)



## 農業集落調査の変遷①

調査名	調査規模	調査の目的	主要な調査項目
昭和30年 臨時農業基本調査	1/5の 標本調査	農業生産や農家生活上から村落共同体における結合関係を明らかにする。	1. 隣保共助的役割（農業水利、共有林野、共同施設から共同作業） 2. 集落における規制（水による規制、農業労働力の規制、生活上の規制） 3. 農業集落の発展段階別の把握（商品生産農業の発展） 4. 農業構造の把握（農地改革の効果、農業生産力構造）
1960年 世界農林業センサス	全数調査	農業生産における共同活動及び農民の生活実態を把握する。	1. 共同利用の機械・施設の普及度合、生産物の共同出荷 2. 土地改良の進捗度 3. 自然的条件（傾斜度、土質） 4. 近代的生活用品の普及状況、食生活の状況 5. 農家の生業 6. 資金協定、耕地価格、農業法人
1965年 農業センサス	全数調査	共用農業用機械の利用及び生活水準の実態を把握する。	1. 共同利用の機械 2. 食料品の購入先 3. 電気冷蔵庫
1970年 世界農林業センサス	全数調査	村落構造の実態、生産の場としての土地、共用生産手段及び生活環境を明らかにする。	1. 共用費用手段、費用機械 2. 農業集落の戸数、社会経済的条件、歴史形態及び慣行 3. 土地（基盤整備、土地改良、転用、耕地価格） 4. 生活環境 5. 出稼ぎ、公害、資金

2020年センサス「利用者のために」

## 農業集落調査の変遷②

1975年 農業センサス 農村環境総合調査	1/7の 標本調査	農村の都市化現象及び農村と都市の生活環境格差並びに土地利用の実態を把握する。	1. 農業集落の立地条件（D1Dとの関係、法制上の地域指定） 2. 農業集落の世帯構成 3. 総土地面積、土地利用、転用、基盤整備、価格 4. 第二、三次産業の状況 5. 生活環境施設状況
1980年 世界農林業センサス	全数調査	農村地域の居住化と農業生産の組織化及び土地の利用状況並びに住民の意思決定機構を把握する。	1. 農業集落の世帯構成 2. 農業集落の立地条件 3. 農業集落の土地、水の利用状況と管理機能 4. 農業生産の諸組織化 5. 農業集落の慣行 6. 農業集落の運営と意思決定機構 7. 生活環境
1990年 世界農林業センサス	全数調査	農村地域の居住化と農業生産の組織化及び集団的土地利用並びに生活環境の整備状況を明らかにする。	1. 農業集落の戸数、土地 2. 共用の農業用機械・施設 3. 農業集落の集団的土地利用 4. 農業生産の諸組織 5. 農業集落の慣行 6. 生活環境の整備状況

## 農業集落調査の変遷③

2000年 世界農林業センサス	全数調査	農業生産構造の変化や農村地域の生活環境等及び農業生産活動の実態、自然資源の賦存状況等を明らかにする。	1. 農業集落の立地条件 2. 農業集落の戸数 3. 農業集落の耕地等 4. 農業生産 5. 農業集落の慣行 6. 地域・環境資源の保全 7. 農業集落の生活環境
2005年 農林業センサス	全数調査	農林業・農山村の有する多面的機能を統計的に明らかにするため、農山村資源の賦存、保全、活用状況等を把握する。	1. 農業集落の立地条件 2. 農業集落の戸数 3. 農業集落の耕地等 4. 農業生産 5. 農業集落の慣行 6. 地域・環境資源の保全 7. 農業集落の生活環境
2010年 世界農林業センサス	全数調査	農山村地域の集落の再生・活性化に資するため、農業集落内でのコミュニティ活動状況や、農山村資源の保全状況を把握する。	1. 農業集落の立地条件 2. 農業集落の戸数 3. 農業集落の耕地等 4. 地域資源の保全 5. 農業集落の活動状況

## 農業集落調査の変遷④

2000年 世界農林業センサス	全数調査	農業生産構造の変化や農村地域の生活環境等及び農業生産活動の実態、自然資源の賦存状況等を明らかにする。	1. 農業集落の立地条件 2. 農業集落の戸数 3. 農業集落の耕地等 4. 農業生産 5. 農業集落の慣行 6. 地域・環境資源の保全 7. 農業集落の生活環境
2005年 農林業センサス	全数調査	農林業・農山村の有する多面的機能を統計的に明らかにするため、農山村資源の賦存、保全、活用状況等を把握する。	1. 農業集落の立地条件 2. 農業集落の戸数 3. 農業集落の耕地等 4. 農業生産 5. 農業集落の慣行 6. 地域・環境資源の保全 7. 農業集落の生活環境
2010年 世界農林業センサス	全数調査	農山村地域の集落の再生・活性化に資するため、農業集落内でのコミュニティ活動状況や、農山村資源の保全状況を把握する。	1. 農業集落の立地条件 2. 農業集落の戸数 3. 農業集落の耕地等 4. 地域資源の保全 5. 農業集落の活動状況

## 農業集落調査の変遷⑤

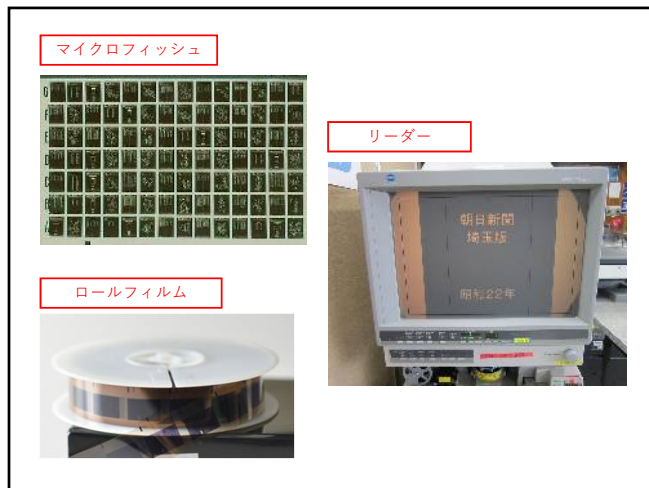
2015年 農林業センサス	全数調査	農山村地域の集落の再生・活性化に資するため、農業集落内でのコミュニティ活動状況、農山村資源の保全状況や集落を活性化するための取組を把握する。	1. 農業集落の立地条件 2. 農業集落の戸数 3. 農業集落の耕地等 4. 地域資源の保全 5. 農業集落の活動状況
2020年 農林業センサス	全数調査	農山村地域の集落の再生・活性化に資するため、農業集落内でのコミュニティ活動状況、農山村資源の保全状況や集落を活性化するための取組を把握する。	1. 総土地面積・林野面積 2. 地域資源の保全状況・活用状況 3. その他農山村地域の現況

## 農業集落調査情報の提供方法

- 1970年：農業集落カードのマイクロフィルム化
- 2005年：農業集落カードの電子データ化
- 2016年：「地域の農業を見て・知って・活かす地域DB」リリース  
(項目によっては2005年センサス結果まで遡及)

2020年センサス農業集落カード

農業経営体調査 + 農業集落調査  
(データによっては累年)



地域の農業を見て・知って・活かすDB ~ 農林業センサスを中心とした総合データベース ~

統計データ

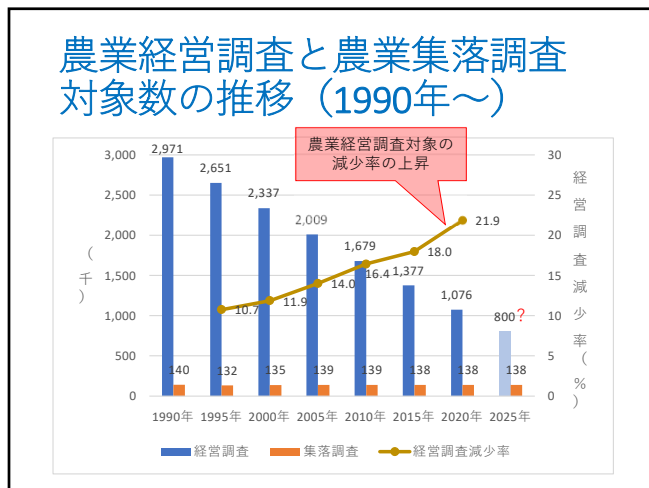
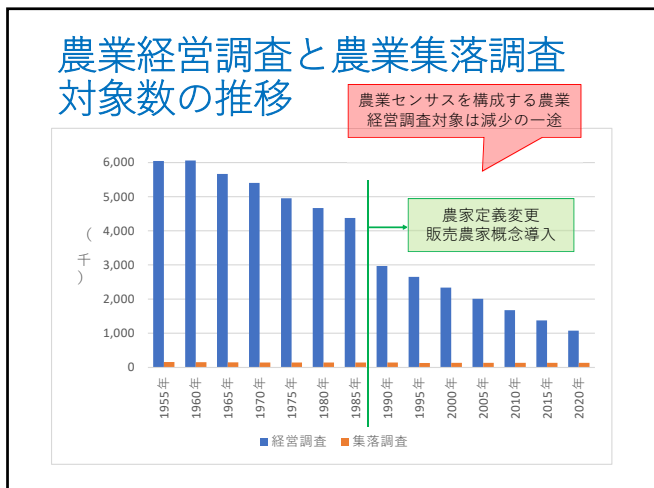
- 農林業センサス
- 国勢調査
- 総世帯数
- 経産センサス
- 生産者農業調査
- 行政情報等
- 農業経営体調査
- 多面的機能支払交付金
- 中山間地域等直接支払交付金
- 国土数値情報(地域区分、各種施設等)
- 地域指標
- 農業集落境界データ
- 農業集落境界の閲覧(外部リンク)

このページについて

- 地域の農業をより深く・詳しく「活用DB」は、農業集落(世帯数15万)を単位として、農林業センサスの集落と各種施設とを結び合わせた、農林業集落が中心のデータベースを構築しています。
- 地域の農業をより深く・詳しく「活用DB」により、地域農産物の地域ブランドに関する情報の提供も可能となります。
- さらに、同じく構築する地域農産物データベース(地理情報システム(GIS)に取組むことにより、「活用DB」をより詳しく活用することが可能で、農産物の産地、生産者の見直し、活用も可能となります。

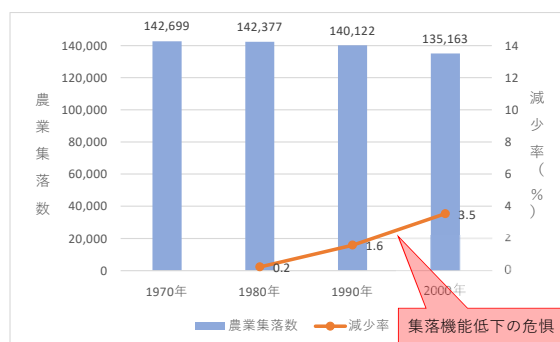
### 農業集落調査の重要性

- 日本農業の特質を踏まえて、農業経営調査(過去の農家調査・農家以外の農業事業者調査、現在の農業経営体調査)と農業集落調査がセットで、農業センサスを構成してきたのではないかと。
  - 「農業共同体的結合のもとに営まれていた我が国の農業構造をより正しくは握しようとする立場から」(『日本の農業集落』農林統計協会、1977年)
- 農業集落調査なき農業センサス(2本柱の1つを欠いた)で、日本農業を正しく把握できるのか?

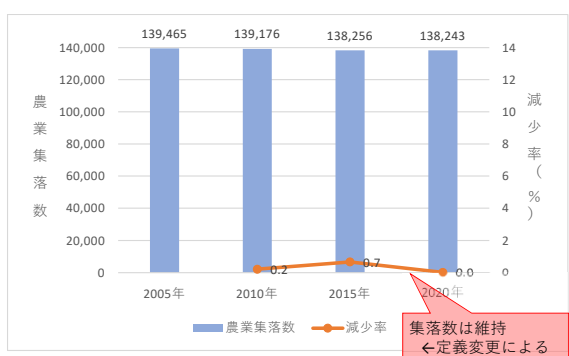


## 2. 集落数の変化と 農業集落定義の変更

### 農業集落数の推移（1970～2000年）



### 農業集落数の推移（2005～2020年）



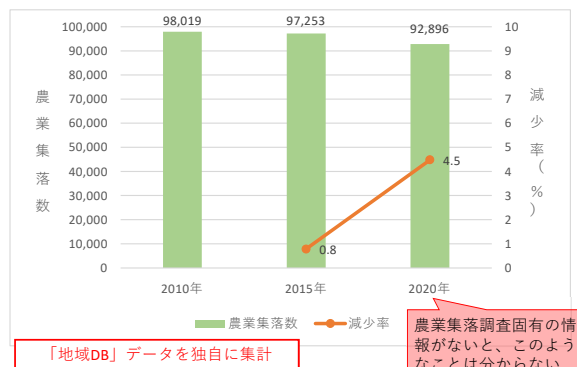
### 定義の重要な変更（2005年）

- 「2000年までは、農業集落の立地条件や農業生産面及び生活面でのつながりを把握するため、農業集落機能があると認められた地域（農家点在地を除く。）を調査対象。」

★農家点在地＝「従前、農業集落としての機能を持っていた地域であっても、市街化や著しい過疎化のために農家がわずかとなってしまい、農業集落としての機能があると認められない地域で、農業集落調査の対象となっていない。具体的には、総戸数に占める農家数の割合が10%未満かつ4戸以下の集落としたが、この場合でも農業集落としての機能があると認められるものについては、一般農業集落としている。」

- 「2005年以降は、農山村地域資源の総量把握に重点を置いて把握することとしたため、集落機能のない農業集落であっても資源量把握の観点から調査対象とすることとし、全域が市街化区域である農業集落については、農政の施策の対象範囲外であることから調査対象から除外。」

### 寄り合いと(農事)実行組合の有る 農業集落数の推移（2010～2020年）





**【1】農業者集落内での活動状況**

1. 寄り合いの有無  
この農業者集落内では、過去1年間に「寄り合い（集会、集会、会合など）」が開催されたか、開催がある場合は「集会（活動）」欄に集会内容を記入し、寄り合いの有無について、該当するものすべてにマークを付けてください。

寄り合いの有無  
なし ○ あり ○

2. 実行組合の有無  
この農業者集落には、地域内の農業者に関する「実行組合」の役割を担っている組織（実行組合）がありますか、いはいずれかのマークを付けてください。

3. 地域資源の有無  
この農業者集落には、以下の地域資源がありますか。  
「地域資源」とは、農業者が営むことによる、集落に固有の価値について「地域資源集落推進計画」の「地域資源集落と連携する」の項目に示す、存在していないものは「無関係」の項目にマークを付けてください。

4. 活動が行われている集落に活動が促されていますか。  
活動が行われている集落に活動が促されていますか。  
活動が行われている集落に活動が促されていますか。

5. 地域資源の有無  
この農業者集落には、以下の地域資源がありますか。  
「地域資源」とは、農業者が営むことによる、集落に固有の価値について「地域資源集落推進計画」の「地域資源集落と連携する」の項目に示す、存在していないものは「無関係」の項目にマークを付けてください。

6. 実行組合の有無  
この農業者集落には、地域内の農業者に関する「実行組合」の役割を担っている組織（実行組合）がありますか、いはいずれかのマークを付けてください。

7. 地域資源の有無  
この農業者集落には、以下の地域資源がありますか。  
「地域資源」とは、農業者が営むことによる、集落に固有の価値について「地域資源集落推進計画」の「地域資源集落と連携する」の項目に示す、存在していないものは「無関係」の項目にマークを付けてください。

調査へのご協力ありがとうございます。

**【1】立地条件等（最も近いD1D（人口集中地区）及び生活圏圏域までの所要時間）**  
農業者の中心地から、最も近いD1Dの中心地がある集落及び生活圏圏域に行く（圏域に属している主な交通手段と所要時間）を該当するもの1つにそれぞれ○を付けてください。

農業者の中心地から最も近いD1Dの中心地がある集落

小学校・中学校は、通学にのみ利用し、主な交通手段として利用していません。

1. 立地条件等  
この農業者集落は、以下の立地条件に該当するもの1つに○を付けてください。

2. 農業者集落の状況  
1. 農業者集落内の総戸数  
農業者集落内の総戸数について記入してください。

2. 農業者集落の状況  
農業者集落の農地・耕地の状況  
農業者集落の農地・耕地の状況について記入してください。

2020センサス  
GIS（地理情報システム）を使った計測（推計）に変更

# 2020年農業集落調査票

**調査票 2枚**

1. 寄り合いの有無と地域活動の実施状況  
この地域では、過去1年間に「寄り合い（集会、集会、会合など）」が開催されましたが、寄り合いの有無について、いづれかにマークを付けてください。  
寄り合いがある場合は、寄り合いの種類について、該当するものすべてにマークを付け、種類となったそれぞれの回数について、具体的な活動状況に該当するものにマークを付けてください。

2. 地域資源の保全  
この地域には、以下の地域資源がありますか。また、地域資源がある場合、その地域資源を地域住民が主体となって保全していますか、いづれかにマークを付けてください。

3. 実行組合の有無  
この地域には、地域内の農業者に関する連絡・調整、活動などの総合的な役割を担っている組織（実行組合）がありますか、いづれかにマークを付けてください。

**【1】寄り合いの種類と地域活動の実施状況**  
この地域では、過去1年間に「寄り合い（集会、集会、会合など）」が開催されましたが、寄り合いの有無について、いづれかにマークを付けてください。  
寄り合いがある場合は、寄り合いの種類について、該当するものすべてにマークを付け、種類となったそれぞれの回数について、具体的な活動状況に該当するものにマークを付けてください。

寄り合いの有無  
なし ○ あり ○

寄り合いの種類  
集会 ○ 集会 ○ 会合 ○

2. 地域資源の保全  
この地域には、以下の地域資源がありますか。また、地域資源がある場合、その地域資源を地域住民が主体となって保全していますか、いづれかにマークを付けてください。

3. 実行組合の有無  
この地域には、地域内の農業者に関する連絡・調整、活動などの総合的な役割を担っている組織（実行組合）がありますか、いづれかにマークを付けてください。

**【2】地域資源の保全**  
この地域には、以下の地域資源がありますか。また、地域資源がある場合、その地域資源を地域住民が主体となって保全していますか、いづれかにマークを付けてください。

【3】実行組合の有無  
この地域には、地域内の農業者に関する連絡・調整、活動などの総合的な役割を担っている組織（実行組合）がありますか、いづれかにマークを付けてください。

## 近年の調査体系の変更

- 2005年まで：職員調査（職員が聞き取り）
- 2010年：調査員調査（調査員が配布、集落事情精通者に記入してもらって回収＋調査員が補足）
- 2015年：同上
- 2020年：郵送調査（＋調査員調査）

## 近年の変更内容の重要点

- 2005年の農業集落定義変更によって、農業集落の数そのものでは、集落機能の低下などの状況が分からない。
  - 寄り合いの状況、実行組合の情報（農業集落調査固有のもの）が重要。
- 2010年センサスでは、調査項目が減少（自分で記入する方式へ変更したことへの配慮）
  - 2015年センサスで再充実化
  - さらに、全数調査で把握することの重要性が再確認された。

総務省・統計委員会が出された意見に対する農水省の回答

資料3-2

平成25年5月30日  
農林水産省

### 審査メモで示された論点に対する回答

2 本調査事項に係る情報把握について、2005年センサスにおいては、センサスに附帯する一般統計調査として、集落機能のある農業集落約11万集落から、約23,000集落を抽出した標本調査として実施しており、今回も同様の手法による情報把握を行う余地はないのか。なぜ、今回は全数であるセンサスにおいて実施しなければならないのか。

(回答)

農山村の活性化や地域コミュニティの再生を図るため、「農山村活性化プロジェクト支援交付金」や「都市農村共生・対流総合交付金」により、農山村への定住や地域間交流を促進するとともに、グリーン・ツーリズムや体験教育等、農業集落が市町村、NPO等と連携した活動に対して支援を行うこととしている。

地域活性化に関する農業集落内での活動予定（寄り合いの議題）や活動状況を把握するとともに、農業経営体調査結果や平地、中山間・離島の立地条件と合わせた比較・分析等を行うことにより、各集落の実態が明らかとなり、各集落（地域）の実情に合わせたきめ細かい施策の展開や効果の検証が可能となることから、全数調査として実施する必要がある。

また、人・農地プラン等の個々の地域に密着した施策が推進されており、集計値や事例値としての利用だけでなく、個別の農業集落データとして提供し利用が図られることが重要である。

図表3-4-1 寄り合いの開催回数が年間5回以下と少ない集落の割合

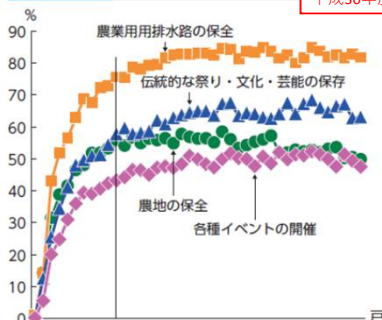


資料：農林水産省「2020年農林業センサス」を基に作成  
注：過去1年間で「寄り合い」が開催された回数について「寄り合いがない」、「1～2回」、「3～5回」と回答した集落の合計の割合

2020年農林業センサスによると、寄り合いの開催回数が年間5回以下と少ない集落の割合を地域別に見ると、北海道や中国、四国地方で大きい傾向にあります(図表3-4-1)。これらの地域での集落活動が弱体化し、地域コミュニティの維持が難しくなりつつあると考えられます。

図表3-1-5 集落活動の実施率と総戸数の関係 (平成27(2015)年)

平成30年度 食料・農業・農村白書

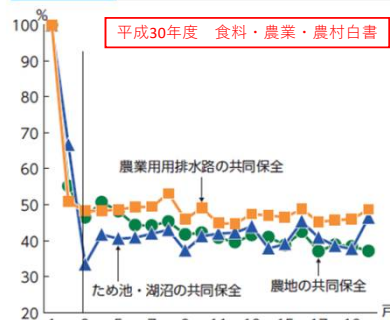


総戸数が10戸を下回る農業集落では、農地や農業用排水路等の地域資源の保全、伝統的な祭り等の保存や各種イベントの開催といった集落活動の実施率が急激に低下する傾向が見られ、集落機能の維持には、最低限度の集落規模の維持が必要であることがうかがえます(図表3-1-5)。

資料：農林水産政策研究所「日本農業・農村構造の展開過程－2015年農林業センサスの総合分析－」(平成30(2018)年12月)

図表3-1-6 地域資源の共同保全率と総戸数の関係 (平成27(2015)年)

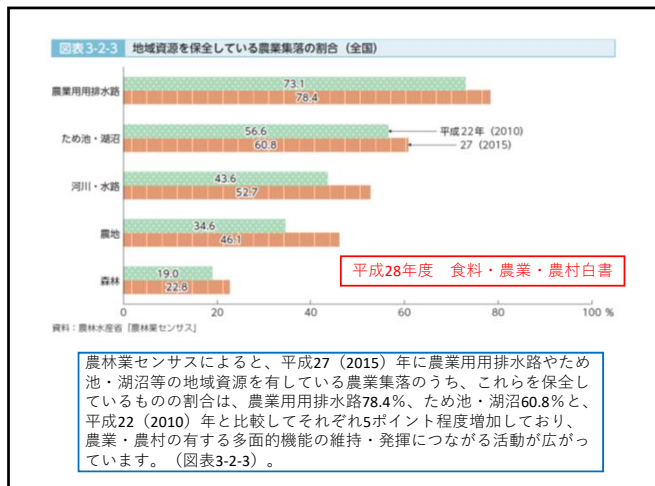
平成30年度 食料・農業・農村白書



総戸数が3戸を下回ると、他の集落との共同保全活動を通して機能維持を図る傾向が見られます(図表3-1-6)。しかし、今後の山間農業地域等では、一定範囲の複数集落が総じて機能を維持できないリスクが高まることも懸念されます。

資料：農林水産政策研究所「日本農業・農村構造の展開過程－2015年農林業センサスの総合分析－」(平成30(2018)年12月)





### 農村型地域運営組織(農村RMO)の形成

令和4年10月 農村振興局農村政策部 MAFF

#### 1. 農村RMO形成の必要性

中山間地域の人口減少と農業集落の状況

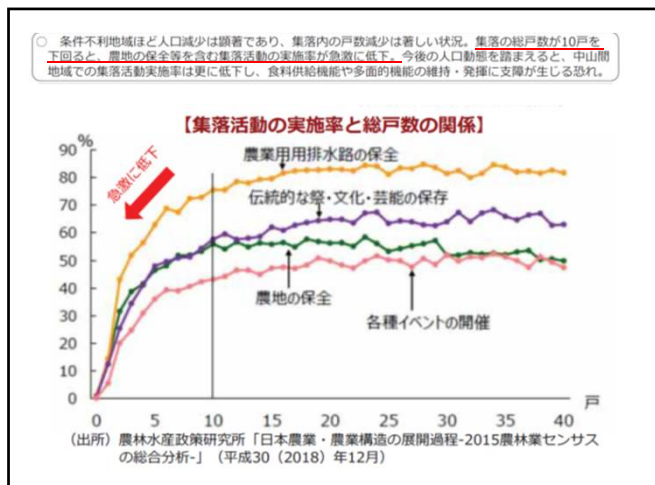
農村地域での集落機能の低下と地域運営組織の必要性

3つの集落機能を補完する地域運営組織(RMO)が必要

地域運営組織とは、地域の生活や暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となって形成され、地域内の様々な関係主体が参加する協議組織が定めた地域経営の指針に基づき、地域課題の解決に向けた取り組みを持続的に実践する組織。

RMO: Region Management Organizationの略

(例) まちづくり協議会、地域づくり協議会、地域協議会、地域運営協議会 等



### 農村地域での集落機能の低下と地域運営組織の必要性

○ 中山間地域では、高齢化・人口減少の進行により、農業生産活動のみならず、**地域資源(農地・水路等)の保全や生活(買い物・子育て)など集落維持に必要な機能が弱体化**。

○ 農家、非農家が一体となり、生産、生活扶助、資源管理に取り組むことで、地域コミュニティの機能を維持・強化することが必要。

農地、共同施設の荒廃化、資源管理(所有と利用の分離)、農村集落機能の衰退、生産補助(相互補完の相薄化)、生活扶助(社会サービスの後退)、生活の困難化

3つの集落機能を補完する地域運営組織(RMO)が必要

地域運営組織とは、地域の生活や暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となって形成され、地域内の様々な関係主体が参加する協議組織が定めた地域経営の指針に基づき、地域課題の解決に向けた取り組みを持続的に実践する組織。

RMO: Region Management Organizationの略

(例) まちづくり協議会、地域づくり協議会、地域協議会、地域運営協議会 等

### 2020年農業集落調査票

【1】寄り合いの開催と地域活動の実施状況

【2】地域資源の保全

項目	実施状況	実施回数	実施内容
寄り合いの開催	○	1回	...
農地・農業用排水路・ため池等の管理	○	...	...
環境美化・自然環境の保全	○	...	...
農業集落内(祭り・イベントなど)の実施	○	...	...
定住を促進する取組	○	...	...
グリーン・ツーリズムの取組	○	...	...
6次産業化への取組	○	...	...
再生可能エネルギーの取組	○	...	...
その他	○	...	...

- 2020年センサスでは、GIS(地理情報システム)による計測(推計)方法も導入 + 調査体系の変更(原則、郵送調査) → 調査負担の軽減による持続性の担保のためだったのでは。
- 2025年は廃止?